



この試合の見どころ

現在勝点3差でチェント・クオーリ・ハリマ(CCH)が首位。この一戦は、今季の関西リーグを占う天王山ともいえる90分となる。

その点では宿敵FC BASARA HYOGOは、CCHが自分たちの力を100%、いや、それ以上に引き出してくれる相手といえるだろう。

昨年の天皇杯関西予選決勝での対戦はまさにそんな一戦だった。リーグ関係者から「関西リーグ史上、最もおもしろい試合だった」と評されるほど、最後まで目が離せない激闘となった。

Jリーグクラブへの挑戦権を懸けた天皇杯の関西代表の1枠を争う一発勝負は、追いつき、追いつかれの展開で90分を終えて2-2。両チームの闘志がぶつかり合う中、チェントは退場者を出し数的不利に。それでもピッチに立つ10人は極限の集中力を発揮し、体を張って相手のシュートを防ぎ続けた。試合は延長戦、そしてPK戦へ。それまで互角以上の戦いを演じていただけに、PK戦での敗戦は、勝利が手からこぼれ落ちるような悔しさが残る結果となった。

同じ兵庫県南部を拠点に地域を盛り上げる仲間である一方、異なるクラブカラーを掲げ、JFL昇格を争うライバルでもある。昨季は首位アルテリーヴォ和歌山と勝点で並びながら、得失点差わずか1で優勝を逃がした。

そのBASARAから今季、松原・ヨム・藤光の3選手がチェントへ加入した。5月の前対戦では3人そろって先発出場。季節外れの猛暑の中、攻守にわたり存在感を示し古巣を大いに苦しめた。試合は0-0の引き分けに終わったものの、新戦力を得たチームとしての成長と課題を感じさせる一戦となった。

ここまで関西リーグの9試合すべてに出場し、今季のチェントに欠かせない存在となった元BASARAの3人。ホーム日岡山で迎える古巣との再戦で、さらに記憶に残る活躍を見せてくれるだろうか。



注目選手



**中央を切り裂く
ジェントルマン**
FW9
松原大芽 選手

「点を取りに来た」。入団後のミーティングで語り、今リーグの得点王を争っている。強い体躯とスピードで一直線にゴールに切り込む。走り出した瞬間相手DFに戦慄が起き、たまらず反則。PK奪取も彼の得意とするチームへの貢献だ。ルックスとプレースタイルは荒々しいが無茶苦茶マジメな男だ。試合前に歯を磨く。

**キュートなファイター
推し活ファン増える**

DF23
ヨム・テファン 選手



ソウル出身で高校生で来日した。サイドに張り出し守備の鉄壁の一翼を担うファイティングスピリットの持ち主だが、「1人でののが好き」と言うようなナイーブな面がある。そのくせピッチに入るとややたどたどしい日本語で誰より叫ぶ。笑顔がキュートで女性による推し活の標的になりはじめた。



**ライン際を弾丸突破
今季の攻撃起点**
MF25
藤光翔 選手

DFがいくらマークしても追いつけぬ快速を飛ばし、身体を大きく揺らす特徴的なドリブルで右サイドを切り裂く。過去のキャリアでは交代要員として後半のゲームチェンジを担ったのが信じられないほどの今シーズンの攻撃の起点だ。「感覚派です」と話すミツのクリエイティビティに古巣BASARAはどう対応するか。



暑さと戦う、暑さを利する

選手たちにもっとも過酷なのが夏だ。比較的涼しい6月が終わり一気に猛暑がチームを襲った。

CCHの練習時間は朝9時スタート。頭上からの日射で、ピッチはその時間で30度。人工芝の表面温度は練習中に40度を超えていく。過去に訪ねたドバイの気温がそれくらいだった。足元が焚き火に当たっているような温度のなか選手たちは毎日練習をする。コーチまでが頭痛を訴える毎日が熱中症ギリギリのラインだ。

早朝から練習ができればいいのだが、公営のピッチはなぜか規定どおり9時からしか開場しない。杓子定規なスポーツ施設運営も選手たちに余分な消耗を強いる。公設スタジアムが多い日本の課題で、これはチームとしても自治体と協議を重ねていくしかない。

この時期、軽トラに17度の井戸水を張った軽トラプールをCCHの練習に投入して練習後のクールダウンに使う。見た目はやんちゃだが、17度の水にみんなで入るクーリング・システムは他のチームは持っていないだろう。練習後、選手は仕事をしながら身体を休息させなければいけない。こういう小さな積み重ねが大きな違いを生んでくれればと思う。

夏の試合は暑い日中を避けて夜にかけておこなわれるが、ピッチの照明が暗いのも日岡山グラウンドの難点だ。このBASARA戦でも照明環境が試合に影響をおよぼすかもしれない。



直近の ホーム戦

9/5(土) 18:00

vs 飛鳥FC

@日岡山公園グラウンド

9/20(日) 14:00

vs 守山侍2000

@日岡山公園グラウンド



アウェイチーム情報

FC BASARA HYOGO

元日本代表・岡崎慎司氏がクラブの理事を務め、高い技術とアグレッシブなスタイルを武器にJFL昇格を目指すライバルクラブ。総合型地域スポーツクラブとして地域に根ざした活動を展開する一方、岡崎氏が監督を務めるドイツ6部「FC BASARA Mainz」も運営。選手やスタッフが海外へ挑戦できる環境づくりにも力を注いでいる。



要注意選手

GK21 清水圭介 選手

加古川市出身で神野FC卒。セレッソ大阪などに在籍し、J1・J2通算200試合以上に出場した経験豊富な選手で、BASARAの精神的支柱になる。ギラヴァンツ北九州在籍時にはCCH監督の佐野裕哉とチームメイトであった。



身体ケア・陸上コーチを採用

選手の身体をなにより大事にするため、今季から東洋医・栄養士・ランニングコーチに参画してもらった。選手を替えるのきく消耗品のようにつづき大切にしないサッカー界にたいする、CCHの反骨心でもある。サッカーは個でも全体でもなくこうしたチーム全体のコラボレーションだ。



松本天翔
フィジカルトレーナー



松村ゆかり
管理栄養士



山田裕貴
スプリントアドバイザー
兼ランニングコーチ

いずれもムサシオープンデパート朝市とコラボ開催！詳細はクラブHP・SNSへ